

(注) 「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意願います。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付となっています。

コモロ連合月報（2025年11月）

《要点》

【内政】

●21日 Al watwan 紙によると、議会の財務委員会は、財務大臣が提出した2026年度予算案を審議している。国内収入を13.52%増の827億7000万コモロフランと見込み、給与や債務利息を除く通常経費は収入の43.93%に抑える方針。戦略的優先事項として、首都圏の整備、エネルギー開発、教育・医療インフラの整備、諸島間スポーツ大会の準備、物価高騰への対応が挙げられている。

●22日 Al Watwan 紙によると、国民議会の財務委員会は、財務大臣が提示した2026年予算案を審議中で、国内歳入の増加（前年比13.5%増）と効率的支出管理を軸に、公共財政の強化、エネルギー・水道インフラ整備、教育・医療・社会保障への投資、産業振興・経済多角化を重点とし、首都圏整備や物価高対策など5つの戦略的優先事項を盛り込む。

【外政】

●6日 Al watwan 紙によると、政府は、ジュネーブとワシントンDCに新たな大使館を設置することを決定した。10月30日、アザリ大統領はこれを定める大統領令を署名し、外務省組織の整備も進めた。これまでニューヨークの国連常駐代表部とジュネーブの国連機関代表部のみだったコモロの外交拠点が拡充され、国際舞台での存在感向上を目指す。

●6日 Al watwan 紙によると、アザリ大統領は、ドーハで島嶼国の開発を巡る支援を訴えた。島嶼国の強みを生かした持続可能な開発や、包摂的なブルーエコノミーの推進、地域協力の強化を提案した。さらに、アフリカの島嶼国向けブルーファンドの創設を呼びかけ、社会的・経済的・環境的影響の大きいプロジェクトへの支援を訴えた。大統領はまた、教育と保健への国家予算配分や女子就学率向上、モバイルマネーの導入など、国内での具体的成果を紹介し、人間中心の開発の重要性を強調した。

●7日 Al watwan 紙によると、アザリ大統領は、COP30に合わせてブラジルのシルバ大統領と会談し、持続可能な農業、再生可能エネルギー、廃棄物管理を中心とした南南協力を強化することで合意した。

●13日 Al watwan 紙によると、コモロのアザリ大統領は海外歴訪の中で、アンゴラ、オマーン、ポルトガルなどとの新たな二国間パートナーシップ強化を進めた。アンゴラでは独立50周年記念行事に合わせてロレンソ大統領と会談し、エネルギーや教育などの協力推進を目的にコモロ＝アンゴラ合同委員会の設立に合意。オマーンの外相との会談では、経済・文化協力や「コモロ新興計画（PCE）」への支援を要請し、2027年のインド洋諸島競技大会開催支援も約束された。さらにポルトガルのモンテネグロ首相との会談では、国連安全保障理事会入りへの支持を表明し、経済・観光・教育分野などの協力拡大を確認した。

●14日 Al watwan 紙によると、コモロと中国は外交関係樹立50周年を迎えた。アザリ大統領と習近平国家主席が祝意を交換した。両国は1975年の外交関係樹立以来、政治的信頼と相互尊重、連帯に基づき、安定した協力関係を築いてきた。両首脳は伝統的な友好関係をさらに強化し、多分野での協力を推進する重要性を強調した。

●19日 Al watwan 紙によると、環境大臣は、ブラジルで開催されたCOP30で演説し、気候変動への行動は「公正に基づくべき」と訴えた。温暖化により小島嶼国が直面する被害や経済損失の深刻さを指摘し、森林破壊の終息（2030年まで）、再生可能

エネルギーの能力3倍化（2035年まで）、適応支援資金の倍増（2030年まで）を目標に掲げた。

●20日 Al watwan 紙によると、コモロとブラジルは、外交、公務、公式パスポート保持者のビザ免除協定に署名した。署名式には外務省関係者とブラジル大使が出席し、距離的に離れた両国を「人と政府の交流で近づける」意義が強調された。

【経済】

●18日 Al watwan 紙によると、17日、Huawei ICT Academy が開校し、15人の学生を対象に5GやAI、クラウドなど最先端技術の教育が開始された。政府とHuaweiの共同事業で、学生は国内で知識を共有する「デジタル大使」としての役割も期待される。

【社会】

●11日 Al watwan 紙によると、コモロ大学では、当初9月に予定されていた学期開始が1か月以上遅れ、11月10日にようやく授業が再開されたものの、学生の出席は全体的に低調だった。

1 内政

14日 Al watwan 紙によると、政府は、2025年第3四半期までの各省の業績を評価する2日間のセミナーを開催し、10省が進捗や課題を報告した。国家計画委員会は、透明性と説明責任の文化を具体化する取り組みとして評価の方法論を整備し、データの信頼性を確保。

<https://alwatwan.net/politique/%C3%A9valuations-des-performances-minist%C3%A9rielles-najda-said-abdallah-%C2%ABce-n%E2%80%99est-pas-un-simple-bilan-administratif,-mais-une-manifestation-concr%C3%A8te-de-la-culture-de-transparence%C2%BB.html>

17日 Al watwan 紙によると、アザリ大統領は、各省の業績評価セミナーで、政府の施策が国民生活に具体的な成果をもたらすよう強調し、水・教育・農業・気候変動対策・女性・若者支援など重点分野での努力強化と公共サービス改善の責任を閣僚に求めた。

<https://alwatwan.net/politique/evaluation-des-performances-minist%C3%A9rielles-i-azali-assoumani-appelle-%C3%A0-plus-de-%C2%ABr%C3%A9sultats-concrets%C2%BB-au-profit-des-citoyens.html>

21日 Al watwan 紙によると、議会の財務委員会は、財務大臣が提出した2026年度予算案を審議している。国内収入を13.52%増の827億7000万コモロフランと見込み、給与や債務利息を除く通常経費は収入の43.93%に抑える方針。戦略的優先事項として、首都圏の整備、エネルギー開発、教育・医療インフラの整備、諸島間スポーツ大会の準備、物価高騰への対応が挙げられている。

<https://alwatwan.net/economie/assembl%C3%A9e-nationale-commission-des-finances-i-le-projet-de-loi-de-finances-2026-en-examen.html>

22日 Al Watwan 紙によると、国民議会の財務委員会は、財務大臣が提示した2026年予算案を審議中で、国内歳入の増加（前年比13.5%増）と効率的支出管理を軸に、公共財政の強化、エネルギー・水道インフラ整備、教育・医療・社会保障への投資、産業振興・経済多角化を重点とし、首都圏整備や物価高対策など5つの戦略的優先事項を盛り込む。

<https://alwatwan.net/economie/assembl%C3%A9e-nationale-commission-des-finances-i-le-projet-de-loi-de-finances-2026-en-examen.html>

2 外政

6日 Al watwan 紙によると、政府は、ジュネーブとワシントン DC に新たな大使館を設置することを決定した。10月 30 日、アザリ大統領はこれを定める大統領令を署名し、外務省組織の整備も進めた。これまでニューヨークの国連常駐代表部とジュネーブの国連機関代表部のみだったコモロの外交拠点が拡充され、国際舞台での存在感向上を目指す。

<https://alwatwan.net/politique/cr%C3%A9ation-des-missions-diplomatiques-des-comores-%C3%A0-washington-dc-et-%C3%A0-gen%C3%A8ve.html>

6日 Al watwan 紙によると、アザリ大統領は、ドーハで島嶼国の開発を巡る支援を訴えた。島嶼国の強みを生かした持続可能な開発や、包摂的なブルーエコノミーの推進、地域協力の強化を提案した。さらに、アフリカの島嶼国向けブルーファンドの創設を呼びかけ、社会的・経済的・環境的影響の大きいプロジェクトへの支援を訴えた。大統領はまた、教育と保健への国家予算配分や女子就学率向上、モバイルマネーの導入など、国内での具体的成果を紹介し、人間中心の開発の重要性を強調した。

<https://alwatwan.net/economie/sommet-de-doha-sur-le-d%C3%A9veloppement-social-i-un-plaidoyer-en-faveur-des-pays-insulaires.html>

7日 Al watwan 紙によると、アザリ大統領は、COP30 に合わせてブラジルのシルバ大統領と会談し、持続可能な農業、再生可能エネルギー、廃棄物管理を中心とした南南協力を強化することで合意した。

<https://alwatwan.net/politique/rencontre-les-pr%C3%A9sidents-comorien-et-br%C3%A9silien-a-belem-i-une-coop%C3%A9ration-sud-sud-tourn%C3%A9e-vers-l%E2%80%99agriculture,-l%E2%80%99%C3%A9nergie-verte-et-la-gestion-des-d%C3%A9chets.html>

13日 Al watwan 紙によると、コモロのアザリ大統領は海外歴訪の中で、アンゴラ、オマーン、ポルトガルなどとの新たな二国間パートナーシップ強化を進めた。アンゴラでは独立 50 周年記念行事に合わせてロレンソ大統領と会談し、エネルギーや教育などでの協力推進を目的にコモロ＝アンゴラ合同委員会の設立に合意。オマーンの外相との会談では、経済・文化協力や「コモロ新興計画（PCE）」への支援を要請し、2027 年のインド洋諸島競技大会開催支援も約束された。さらにポルトガルのモンテネグロ首相との会談では、国連安全保障理事会入りへの支持を表明し、経済・観光・教育分野などの協力拡大を確認した。

<https://alwatwan.net/politique/relations-bilat%C3%A9rales-le-chef-de-l%E2%80%99etat-noue-de-nouveaux-partenariats.html>

14日 Al watwan 紙によると、コモロと中国は外交関係樹立 50 周年を迎える。アザリ大統領と習近平国家主席が祝意を交換した。両国は 1975 年の外交関係樹立以来、政治的信頼と相互尊重、連帯に基づき、安定した協力関係を築いてきた。両首脳は伝統的な友好関係をさらに強化し、多分野での協力を推進する重要性を強調した。

<https://alwatwan.net/politique/coop%C3%A9ration-sino-comorienne-i-azali-assoumani-et-xi-jinping-se-f%C3%A9licitent-pour-les-50-ans-des-relations-d%E2%80%99amiti%C3%A9-solide.html>

19日 Al watwan 紙によると、環境大臣は、ブラジルで開催された COP30 で演説し、気候変動への行動は「公正に基づくべき」と訴えた。温暖化により小島嶼国が直面する被害や経済損失の深刻さを指摘し、森林破壊の終息（2030 年まで）、再生可能エネルギーの能力 3 倍化（2035 年まで）、適応支援資金の倍増（2030 年まで）を目標に掲げた。

<https://alwatwan.net/societe/cop30-i-le-ministre-de-l%E2%80%99environnement-appelle-%C3%A0-une-action-climatique-%C2%ABfond%C3%A9e-sur-la-justice%C2%BB.html>

20 日 Al watwan 紙によると、コモロとブラジルは、外交、公務、公式パスポート保持者のビザ免除協定に署名した。署名式には外務省関係者とブラジル大使が出席し、距離的に離れた両国を「人と政府の交流で近づける」意義が強調された。

<https://alwatwan.net/politique/coop%C3%A9ration-comores-br%C3%A9sil-i-vers-une-exemption-de-visa-pour-les-diplomates-des-deux-pays.html>

24 日 Al watwan 紙によると、政府は中国代表団と、2027 年のインド洋諸島競技大会に向け建設中のミツジェの体育館とオリンピック規格プールの工事現場を視察した。両国が合意した共同プロジェクトで、4か月で大きく進捗しており、完成に十分な時間が確保されていると政府側は自信を示した。

<https://alwatwan.net/societe/infrastructures-des-jioi-2027-i-une-mission-comoro-chinoise-en-visite-%C3%A0-mitsudje.html>

27 日 Al watwan 紙によると、マラケシュで開かれた第 93 回インターポール総会に参加したコモロ連合は、内務大臣が率いる代表団が国際協力強化を強調し、犯罪・テロ対策への積極的取り組みを表明した。会合では、迅速な情報共有システムや高度な IT ツールの導入、海上安全保障や国境管理の強化、違法移民対策、資金洗浄やテロ資金対策の必要性が訴えられた。

<https://alwatwan.net/politique/93e-assembl%C3%A9e-g%C3%A9n%C3%A9rale-%E2%80%99interpol-i-a-marrakech,-les-comores-s%E2%80%99alignent-%C3%A0-la-strat%C3%A9gie-de-gestion-des-menaces-globales.html>

3 経済

18 日 Al watwan 紙によると、17 日、Huawei ICT Academy が開校し、15 人の学生を対象に 5G や AI、クラウドなど最先端技術の教育が開始された。政府と Huawei の共同事業で、学生は国内で知識を共有する「デジタル大使」としての役割も期待される。

<https://alwatwan.net/societe/formation-aux-nouvelles-technologies-i-huawei-lance-son-acad%C3%A9mie-des-tic-aux-comores.html>

19 日 Al watwan 紙によると、17 日、全国クラブ会議が終了し、参加者は生産と流通の近代化に向けた提言をまとめた。会議にはアザリ大統領も出席し、大統領は閉会演説で、構造的課題を認めつつ、全国的な一体性と責任ある姿勢で提言を実行し、クラブ産業のバリューチェーン全体を強化すると約束した。

<https://alwatwan.net/societe/assises-nationales-du-girofle-i-azali-assoumani-%C2%ABnous-allons-consolider-toute-la-cha%C3%AEne-de-valeur%C2%BB.html>

28 日 Al watwan 紙によると、モワリ島ワナニに、EU 資金で整備されたコモロ初の農業職業教育専門校「農業・農村開発職業養成国立学校（Enfad）」が開校し、210 名収容の近代的施設で農業系 3 課程（BEPA、農業バカラア、農業分析・起業の BTS）を提供、国家の人材育成と農業振興を担う拠点として位置づけられ、初年度は 74 名が入学し段階的に 90 名体制となる予定で、政府は年間 8,000 万フランの運営補助を約束している。

<https://alwatwan.net/education/formation-professionnelle-i-l%E2%80%99%C3%A9cole-des-tiers-agricoles-inaugur%C3%A9e-%C3%A0-wanani.html>

4 社会

10 日 Gazette 紙によると、Gazette 紙によると、中国大使館で孔子学院のコモロ人学生らが中国ドラマ『Minning Town』を視聴し、意見交換を行った。このドラマは

農村から都市への移住と貧困脱却を描き、協力や挑戦の重要性を示すもので、学生たちは自国での開発や香料製品の地元加工・輸出への可能性を語った。中国側は連帯と協力の重要性を説き、若者に夢の実現を呼びかけている。

<https://www.lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/coop%C3%A9ration-sino-comorienne-quand-la-s%C3%AArie-%C2%AB-minning-town-%C2%BB-inspire-les-jeunes-comoriens-.html>

11 日 Al watwan 紙によると、コモロ大学では、当初 9 月に予定されていた学期開始が 1 か月以上遅れ、11 月 10 日にようやく授業が再開されたものの、学生の出席は全体的に低調だった。

<https://alwatwan.net/education/universit%C3%A9-des-comores-i-une-faible-reprise-des-cours-observ%C3%A9e-lundi.html>

13 日 Al watwan 紙によると、12 日、政府は「マオレの日」を祝賀し、国連加盟 50 周年と四つの島の統一を記念した。アザリ大統領は「コモロの領土的一体性は選択ではなく、歴史的かつ道義的義務だ」と強調し、フランスの支配下にあるマイヨット島問題の平和的解決に向け、対話と外交による統一回復を訴えた。

<https://alwatwan.net/politique/c%C3%AAbration-de-la-journ%C3%A9e-maore-azali-assoumani-%C2%ABnotre-destin-est-li%C3%A9-%C2%BB.html>

18 日 Al watwan 紙によると、エール・オーストラルは 2025 年 12 月から、レユニオン島とコモロ間の直行便を再開する。昨年 7 月以降はマヨット経由が必要で、時間や費用の負担が大きかったため、コミュニティからの要望に応えた形での再開。

12 月と 1 月に計 9 便が運航予定で、今後は直行便の恒常的な運航に向けた調整も求められている。

<https://alwatwan.net/societe/liaison-r%C3%A9union-comores-i-reprise-des-vols-saisonniers-directs-d%C3%A8s-d%C3%A9cembre.html>

(了)